

松田朕佳

作品キャプション

《Sucking Up Milky Way (天の川を吸い上げる)》

《段ボール星》

《双児の土星》

《ワニの目》

《夜行性のフライト》 2015年

星空の構造—太陽の光は星の光

星の光は星が出している為に暗闇の中に光るのでしょうか、それとも暗闇が縁取る為に光るのでしょうか。ネガティブとポジティブ、規定するものと規定されるものは主観によって変化するようです。様々な生活環境から生まれた各地の神話や宇宙観は生活様式の変化に伴い更新又は変化してきました。観測と哲学は常に主観の現在を反映するもので、立ち位置を明確にする作業のように思います。しかし主観は複数でしかも動き回るため、この行為には終わりがありません。なぜなら次々に生まれてくる生命には二つずつ目がついているのですから。宇宙観はそれぞれの状況；自然、政治、経済などに応じて今後変わっていくことでしょう。ボルヘスのエッセー「ジョン・ウィルキンズの分析言語」の中で古代中国の百科事典にある動物分類法について次のようにあります。

(a) 皇帝に属するもの、(b) バルサム香で防腐処理したもの、(c) 訓練されたもの、(d) 乳離れしていない仔豚、(e) 人魚、(f) 架空のもの、(g) はぐれ犬、(h) 上記の分類に含まれているもの、(i) 狂ったように震えているもの、(j) 数え切れないもの、(k) ラクダの毛で作ったきわめて細い筆で描かれたもの、(l) など、(m) つぼを壊したばかりのもの、(n) 遠くからだどハエのように見えるもの。

分類というのが主観的で主観と対象物の距離を象徴するものだということが伺えます。遠くからだど星の光のように見えるものも望遠鏡を使って近づけばユニークな個体として名前をつけるでしょうし、太陽のように私たちにとって存在感の大きな星の光もまた、一つの小さな星の光なのです。

プロフィール

1983年生まれ。信濃町在住。2006年にニュージーランド、Nelson Marlborough Institute of TechnologyよりBachelor of Art取得。2010年にアメリカ、アリゾナ大学大学院Master of Fine Arts修了後、ニューメキシコ州Border Art Residency、イリノイ州Prairie Center of Art、ベルリンAgora winter residency、バルセロナHomesession等アーティストインレジデンスをしながら日用品や日常の行為を用いたパフォーマンスや立体作品を主に制作している。主な受賞に2009年「First Place and Purchase Award」Harwood Art Center, Crossing 2009 South West Graduate Student Competition (アメリカ)、2008年「Outstanding Student Achievement in Contemporary Sculpture Award」International Sculpture Center (アメリカ)、2007年「第8回スパイラル・インデペンデント・クリエイターズ・フェスティバル審査員赤池学賞」等がある。